

高梁の文化収蔵品

今月号は、景年記念館に収蔵されている作品の中から「大歎喜」と「南無妙法蓮華経」を紹介いたします。

■問い合わせ 景年記念館 (☎45)3712



【大歎喜】

川上景年(1903~2003)は高梁市備中町出身の書家です。若くして上京し、大道書学院を主宰されるとともに、玉川大学の教授として学生の書の指導にあたりました。

また、国内においては、長年にわたり書作展を開催されると同時に、中国においても4回の作品展を開き、日本のみならず中国、ヨーロッパ各国においても広く書道文化の紹介を行いました。

景年は、完全表装の創作作品と合わせて1億円を恵贈し、平成9年、備中町に書道文化の殿堂となる「景年記念館」を設立し、景年の作品七点余りを収蔵するにいたりしました。

今回はその中から、楷書と飛白書を掲載しています。漢字の書体で楷書、行書、草書の三つを総称して三体といえます。

景年は特に長年にわたり楷書の大家のひとり中国唐時代の顔真卿を中心とする中国の書家を徹底研究し、書のあらゆる分野にわたり、正統派の書法を究めました。その書法を基に数々の作品を残しています。その中のひとつが上の「大歎喜」です。

また、左の「南無妙法蓮華経」は飛白体で書かれています。この書体は略して「ひはく」、または「かすりかき」ともいい、黒い墨線に白い部分があることからこの名があります。刷毛のような平たいもので書かれたと想像されていますが、実物が残されていないため、詳しいことは分かりません。日本では弘法大師の「七祖賛」「十如是」の二種があるだけとなり、こうした少ない手がかかりの中、景年が長年の研究の末、完成した作品で、現代に飛白書再現を実現した純然たる創作となります。

平成11年には、備中町名誉町民(現在は高梁市名誉市民)に推戴されています。



【南無妙法蓮華経】

シリーズ

歴史まちづくりセミナー ⑤

歴史まちづくり計画から「城下町の端々に見える歴史的風致」について紹介します。

■問い合わせ 歴史まちづくり課 (☎20)20211

① 藩祖を神とした八重籬神社

御前神社や八幡神社が古くから城主や城下の人々の信仰を広く集めたのに対して、八重籬神社は藩主板倉家の始祖勝重、二代重宗を祀り、武士の氏神として信仰を集めた神社です。寛政5(1793)年備中松山城御根小屋に祀ったのが始まりで、文政13(1830)年に現在地に遷



八重籬神社と藤の胴太鼓、六角神輿

宮し、当時の社殿が現存しています。このときから毎年11月7日の神社が建立した日と勝重の命日である4月29日に祭礼が営まれるようになり、藩主が在藩していれば、必ず参拝していました。

現在も勝重の命日には祭礼が営まれ、神主の祝詞が上げられ、地域の人々が参拝し、宮神楽が奉納されています。このとき、社宝である備中松山藩の時報用太鼓であった藤の胴太鼓、六角神輿(ともに市重要文化財)が披露されます。備中地域に広く伝えられる備中神楽とかつての武士たちの祭礼が一体となって伝えられています。

城下に多く残る民間信仰

そのほかにも、高梁の町並みの中には小さな神社や祠が多く

カラフル野菜のトッピング

夏野菜を刻んで、梅肉、かつお節、しょうゆであえました。暑い時期には、あっさりとした口当たりのよい冷ややっこ、そうめんなどを食べる機会が増え、栄養も偏りがちです。そんな時にこの野菜のトッピングを添えることで栄養のバランスを保つことができます。



今月のレシピ提供は
市栄養改善協議会連合会成羽支部
相原 佐知子 さん

1人分の栄養価 エネルギー 27kcal、たんぱく質 1.8g、脂質0.2g



<材料> (4人分)

- キュウリ 200g
- ナス 80g
- 赤ピーマン 40g
- 黄ピーマン 40g
- 塩 少々
- ミョウガ 20g
- ネギ 20g
- 梅干し 40g
- かつお節 2g
- しょうゆ 小さじ2

<作り方>

- ①キュウリ、ナス、赤ピーマン、黄ピーマンはあらみじん切りにする。
- ②キュウリに塩少々を振り、しんなりさせておく。
- ③ナスは水にさらし、あくを抜き、水気を切る。塩少々を振り、しんなりさせておく。
- ④ミョウガは千切り、ネギは小口切りにする。
- ⑤梅干しは種を取り刻み、Aを混ぜ合わせたもので、①②③をあえる。
- ⑥器に盛り付け、④をかけて出来上がり。

※このレシピは、行政チャンネル、市ホームページでも紹介します。

あります。祈願は地鎮・治水・交易の成功の3つです。地鎮では、土地を鎮め、山中や水中の悪霊から人々を守るため、町のはずれに常夜燈や神社が置かれました。常夜燈は、金毘羅宮や稲荷、地神などと一緒に奉納され、金毘羅宮は交易の成功を願うもので、商人の町らしい信仰です。常夜燈は高梁川沿いのほか、東町の端々にあり、当時南町や東町、高梁川沿いが城下町の端であったことを思い起こさせます。

他にも恵比寿社や稲荷神社、山神社、荒神社などが祀られ、今も夏祭りが行われています。例えば、恵比寿信仰をもとに祠を建て祭礼が営まれる恵比寿社があります。7箇所あることから「七恵比寿」と呼ばれ、商家が商売繁盛を願い、毎年旧暦の6月15日に宵祭り、16日に本祭りが行われます。今もその伝統



常夜燈 (和霊神社)

③ 城下の端々に見える風情

高梁は小さな城下町ですが、歴史ある寺社が多く建ち並んでいます。御前神社・八幡神社・八重籬神社のように、城下町高梁の産土神、あるいは武士の氏神として祀られ、城下町全体の人々から厚い信仰を受けるものもあれば、恵比寿社など小さな神社や祠もたくさんあります。江戸時代につくられた都市高梁では、城下の端々に伝統的な人々の暮らしが垣間見え、歴史的な町並みと一体となって風情を醸し出しています。



鍛冶町恵比す神社 本祭りの様子